

業務部速報



No. 151

発行 22. 3. 25

JR東労組 業務部

申26号 組合員・家族の生活を守り、将来へのモチベーションの維持・向上を実現するための、2022年度賃金引上げ等に関する

緊急再申し入れ 第1回交渉③

* 組合の主な主張の赤字は、中央本部に寄せられた組合員の声です！

ベアゼロの中、「予算が余ったから欲しいものないか？」

ポケット時刻表の配布廃止やホームの時刻表や時計を撤去してるが数を削減するなどすればよかった。一方、職場では、「予算が余ったから欲しいものないか」と管理者が社員に聞いて回っている。ベアゼロなのに何故無駄な物を買うのか／やたら飲み会とかで経費を落としている／ベアゼロの現実とやっていることが違うじゃないか／褒賞を活用して配られたモノが不評だった。そのようなお金の使い方をするのであれば、ベアに反映してくれればいい／年度末になって予算の使い切りが現場で発生する／コストダウンをやっている中で無駄なお金の使い方ではないか

使い切るとは考えていない。適切に経費を考えて使っている。

JR東日本を魅力ある会社にするために現実を受け止めるべきだ！

こんな会社になるとは残念。もし私に子供がいたら、絶対に勧めない。人間尊重企業のわが社はどこへやら。いつか大変な事が起こると、危惧します／心は離れるばかりです／世間に恥ずかしくない会社、堂々とJR社員ですと言える会社にしてほしい／今の会社は、昔と違って、子供に勧める事がはっきり言って出来ない。社員のやる気、ベースアップ、賃金を根底から崩すことばかり。社員、一人一人の普通の頑張りを見ていない。給料の引き締めばかり。それでは、家族にすら就職先としておすすめは出来ません。昔はみんな、会社を良くしてやろうとすごい奮起しました。それは、やった分の見返りがあったから／「やり甲斐」とは「衣食住」が足り生活にある程度余裕が生まれて初めて実感するべきものである。家族を「やり甲斐」で養っていいのか、お腹はふくれるのか、教育を受けさせることができるのか。この声に対し、どう答えるのか。

社員の皆さんの頑張りがあって、今の業績、会社があるので感謝している。様々なご意見があるのは受け止める。様々なことを提案した中で、最大限の回答を行っている。

JR東労組も魅力ある会社を作りたいと思っている。組合員にこんなことを言わせるために活動をやっていない。しかし、現実こういう意見が出てしまっている。労使でこの現実の意見を受け止めていかなくてはならない。会社回答でこういう組合員・社員が出てきていることを重く受け止めて頂きたい。

会社しても魅力ある会社になりたい。そのような中でも、今厳しい状況で様々なご意見も受け止めるが、会社として構造改革を進めて、しっかりとそれを社員還元につなげたい。

緊急再申し入れに至った組合員の声を受け止めて頂きたい！

組合の主な主張

会社の主な主張

厳しい時を歩いていることは勿論認識している。皆、協力できることを一生懸命やっている。施策に対してもしっかり向き合いながらやっている。だからこそ、経営陣もしっかり姿勢を見せてもらいたい。真の黒字化にさせるのだという姿勢を！

厳しい時だからこそ、経営陣が姿勢を見せ社員一丸になって難局を乗り越える必要がある。そのためには申22号の回答では不満や不信が多く発生している現実を直視し、職場の努力に応える判断をして頂きたい。組合にも、その職場で努力をしている仲間の本音が会社に届いているのかと問われて、緊急再申し入れに至っている。是非この声を受け止めていただきたい。

厳しい状況で何もしていないということではない。コロナ禍の一時的な取扱い、または休暇や通勤手当など、出来る限りのところで最大限行っている。

会社は組合員の意見を受け入れ、早急に次回の日程を調整するべきだ！

次回の日程については、早急に調整していただきたい。申26号は継続議論でよいか。

今日様々な議論をして、様々な意見をいただいた。その上でも会社の考え方、回答書の内容は変わらない。

団体交渉で我々の意見に引き続き向き合うスタンスなのか。

貴側が継続議論として終了していない認識なのに、これ以上議論する必要はないと述べるつもりはない。

早急に一定の期間で議論するのは、双方の認識である。早急に日程調整していただきたい。

了解